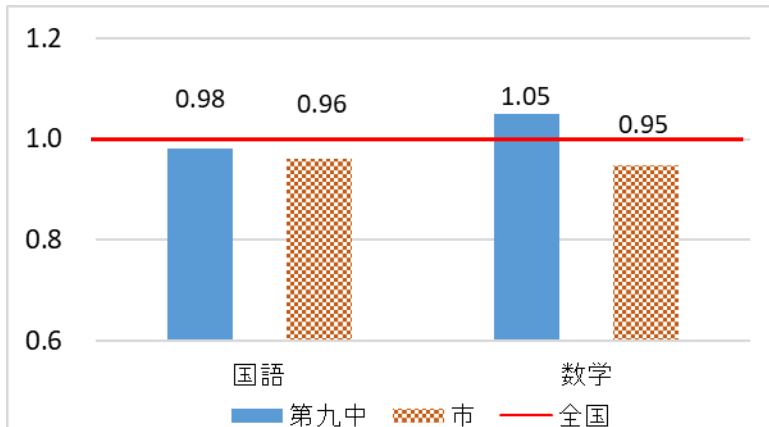


令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第九中学校区 第九中学校

第3学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

全国平均に近い正答率に引き上げることができた。伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く（+5.8）、事象や行為を表す多様な語句についての理解（+5.6）などの項目で全国の前答率を上回った。しかし、話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える（-9.5）、登場人物の言動の意味を考え内容を理解する（-8.9）項目に課題が見られた。生徒同士の意見交流や作文の紹介でタブレットを活用し、生徒自身が積極的に考え、他者の意見を踏まえて自分の考えを深められる授業を推進していく。

【数学】

整式の加法と減法の計算（+11.2）、平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由の説明（+9.1）など多くの項目で全国の前答率を上回った。しかし、関数の意味の理解（-10.1）や、経過時間と影の長さの関係を、「 $\bigcirc\bigcirc$ は $\triangle\triangle$ の関数である」という形で表現することに課題があり、出題の文章を正確に読み取る練習を行う必要がある。各自が集中して問題を解き、その後、互いに教え合って理解を深めるという学習スタイルを一層深化、充実させていきたい。

【質問紙調査】

学校として自己肯定感をあげる取組を継続してきているが、「自分にはよいところがある」や「学校に行くのは楽しい」の項目において、全国平均を下回り、課題の残る結果であった。教科指導に関わる項目では、「数学の勉強は好き（+11.5）」をはじめ、肯定的に捉えている生徒の割合は高かったが、「英語の勉強は好き」では全国平均には届かず、英語への苦手意識が見られた。家庭学習においては、平日2時間以上家庭学習をする生徒の割合は高かった（+6.1）が、休日2時間以上家庭学習する割合は低く、休日の学習習慣に課題がみられた。

○学力向上の取組

【中学校区】

校区として、話を正確に聞く力・自分の思いや考えを話す力を大切に取り組んできている。そのため、昨年度に引き続きディベート教育を中心として、話す力・聞く力を身につけ、論理的・客観的・多角的思考力を培い、考える力の育成を進めている。

寝屋川方式の学習方法を基に、学習規律の徹底を校区教員で進め、小中9年間で一貫した指導を進めていくことで、児童・生徒の学習習慣の定着を図っている。また児童・生徒の主体性を伸ばすとともに、がんばっている姿・良いところを褒めて、自己肯定感を高めている。

【学校】

現3年生は、投票で選んだリーダー（班長）を中心に協力しあえる集団づくりを掲げ、3年間かけて積み上げてきた学年であり、学校行事などで力を発揮するだけでなく、学習面でも日常的に生徒同士で教え合って理解を深めることができている。他学年についても、自己肯定感を高める取組を継続的に行っており、落ち着いて学習に取り組める校風の醸成に一層力を入れていきたい。